

発行人：進藤 史明：(社)秋田青年会議所 広報委員会

F 010-0951

秋田県秋田市山王 2-1-54 三交ビル 3階

TEL018-824-7070

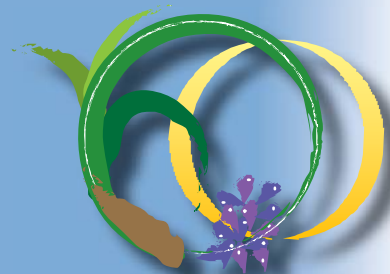
FAX018-824-7071



創立60周年のシンボルマークについて

60周年のシンボルマークは「青年の木」をメインに作成しています。
上へ上へと葉を伸ばす姿が青年の姿に似ていることから各付けられた木で
この木を我々Jayceeに例えました。

青年の木の先にある葉の部分には「ムスカリ」と花で、花言葉は「明るい未来」です。
青年の木の葉が伸びて明るい未来への架け橋になっている姿を表現しています。
また、全体を見て「稲穂」をイメージし「稲穂～笑顔～あきた」としているのと、
60周年の「60」に見えるようなデザインとなっています。



秋田醸しまつり 2012 を終えて

地域のたから発信委員会 委員 林 徳彦

10月8日(月)アルヴェ1階のきらめき広場、アゴラ広場及び秋田駅ぽぽロードにおいて『秋田醸しまつり2012』を開催いたしました。

当日は天候にも恵まれ、総来場者数が10,000人に達する盛大な事業を開催する事が出来ました。

この事業を行うにあたり、昨年実施した「秋田醸しまつり2011」において構築した市民社会資本をさらに広く発信するため「秋田醸しまつり実行委員会」を発足しました。その委員会を通じあきたが世界に誇る醸造文化を中心に「あきたのたから」が数多くあることを認識することで、地域住民一人ひとりがあきたに自信と夢を持ち、明るい豊かな社会を構築できるよう『秋田醸しまつり2012』として開催いたしました。

当日、第1会場のアルヴェでは発酵醸造文化の発信に重点を置き、県内の酒蔵を一堂に集め地酒を中心とした醸造文化の魅力を再確認してもらいました。また、実行委員会の企画による発酵創作料理を食ブースとして出展しました。第2会場のアゴラ広場では発酵醸造に限らないあきたの「食のたから」を提供。また、2会場を繋ぐぽぽロードでは秋田青年会議所の60年の歩みを紹介するパネル展示を行いました。



実行委員会では昨年の経験を踏まえ前向きな議論がありました。その中で学生や各団体の専門家の方々と共に「あきたのたから」を作り上げ、それらを県内外からいらっしゃった方々から喜んでもらった事等を通じて、私自身も普段忘れかけていた、あきたの魅力を再認識することが出来ました。

最後になりますが、協力していただいた各団体の皆様、そしてなにより開催に携わっていただいた多くのJCメンバーに感謝申し上げます。ありがとうございました。



中高生が創るまちづくり実行委員会事業

に参加して

地域人財育成委員会 運営幹事 石田 裕

10月8日(月)秋田駅前アゴラ広場において、中高生が創るまちづくり事業を行いました。爽やかな秋晴れの中、中高生が地域の人に郷土料理をもっと知ってもらおうと、自分たちで考えて創りだし、オリジナルきりたんぼ料理を販売いたしました。

本事業は、地域のために自分たちで何かをしたいと学校の枠を超えて集まった小中高生が主体となり企画したものであり、我々J Cメンバーはそれを支援するという事業でした。

我々が企画し実行するというものではなく、あくまで中高生の支援というかたちなので、今までとは違った難しさ、もどかしさがあり、会議で何ひとつ決まらなかったときには、このまま学生達にまかせておいてよいものかと思っただけでもありました。



しかし、そんな我々の心配をよそに持ち前の若さとパワーで、用意した100食をあっという間に完売したとき、全てが杞憂だったと思い知らされました。

次世代を担う若い力は着実に育っており、我々委員会メンバーも大いに刺激を受ける事業であったと思います。

そのような事業に参加でき、成功したことを誇りに思い感謝しております。

結びになりますが、商品の協賛を快く承諾してくださった、斎藤昭一商店の斎藤社長をはじめ、ご協力していただきました皆様に心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

第61回全国会員大会 北九州大会

に参加して

地域人財育成委員会 委員長 根田絵美子

10月11日から4日間の日程で第61回全国会員大会北九州大会に理事長を始め、多くのメンバーで参加してきました。

12日は北九州国際会議場にて日本青年会議所の理事会があり、2015年度、第64回全国会員大会の主管を務める青年会議所が決定いたしました。広島J C、埼玉中央J C、八戸J Cが開催地として手を挙げており各青年会議所の理事長が最後のプレゼンテーションをしておりました。我々も同じ東北の人間として少しでも全国のJ Cメンバーに想いが届くよう微力ながら応援することができました。投票の結果、第64回全国会員大会主管青年会議所が八戸J Cに決定し、その瞬間涙している八戸J Cのメンバーを見て非常に感動いたしました。

13日には北九州ソレイユホールで日本青年会議所の第140回総会が開催されました。ここでは次年度会頭が承認される場となっており、当青年会議所監事の小畑宏介君が次年度会頭として満場一致で承認されました。私は次年度会頭が生まれる瞬間というのを初めてこの目で見ました。何千人が入る会場で堂々とステージに立つ小畑監事を見て感動を通り越し、歓喜の震えを感じる程でした。我々秋田J Cの誇りであり、次年度は出来る限り秋田J Cで支えて行きたいという想いで、総会に参加したメンバー全員が一致団結した事と思えます。

夕方には懇親会「たからいち」が勝山公園にて開催されました。

北九州は日本の南側ではありますが、秋田とさほど変わらない寒さでした。様々なゲストが会場を盛り上げ、また全国各地から選ばれたご当地グルメの食ブースが設けられ、全国各地のJ Cメンバーと交流を深める事ができました。

また会場から見える北九州市役所庁舎の窓の明かりでJ Cの文字を作っており、非常に感動しました。

最終日の卒業式では秋田より卒業生5人が参加しました。それぞれのJ Cライブを締めくりに相応しい場であり、ゲストのシンガーソングライターの岡本真夜さんのライブも非常に盛り上がりを見せました。全国から集まったJ Cメンバーに会場は埋め尽くされ、感動と熱気に包まれました。最後になりますがお忙しいところご参加頂いたメンバーの皆様本当にありがとうございました。



アカデミー委員会閉校式に参加して

渉外委員会 委員 菅原陽子

10月6日協働大町ビルにて第6回アカデミー委員会及び閉校式に参加しました。

J C活動について何もわからない入会2年目の私でしたが、秋田ブロック協議会アカデミー委員会に出向という機会をいただく事となりました。

あがり症の私は、突然意見を求められる事にいつもドキドキしていましたが、せっかくアカデミー委員会に参加したのでこれに立ち向かっていくことを心がけました。

一番心に残った事は、講演前のアイスブレイキングで参加メンバー全員の背中に紙を貼りその人の第一印象を書いた時のことです。参加した皆さんが気を遣ってくれたとは思いますが、嬉しい事を書いてくれました。

その言葉は、私が落ち込んだ時や悲しい時、それをお守りとして持ち歩きました。「私には仲間がいる」とJ Cに入ってアカデミーに参加してよかったと思う瞬間でした。

これからも少しずつ「奉仕・修練・友情」の青年会議所の三信条のもと頑張っていきたいと思えます。最後になりますがアカデミー委員会に出向する機会を与えてくださった進藤理事長本当にありがとうございました。



JC 異業種交流会を終えて

拡大委員会 委員長 桐生謙吾

9月27日に秋田ビューホテルにおいて会員拡大事業『J C 異業種交流会・名刺交換会』を、秋田青年会議所の活動と運動を多くの方に知っていただきたいとの想いで、メンバー28名に一般参加者が13名と多くの参加をいただき開催いたしました。

私から参加者の方に青年会議所とはどのような団体であるのか、またどのような成り立ちであるのかを本年度の事業の報告を通じてお話させていただきました。後半の名刺交換会では、一般参加者と多くのメンバーが講演で伝えきれなかったJ Cの活動や運動について話し合い、大いに盛り上がりました。

今回の事業を通して一般参加者にJ Cの魅力が伝えることができ、J Cに対して興味を持ってもらえたことは大変意義のあったことだと思います。

今年も残り少なくなりましたが、委員会メンバー一丸となって最後まで会員拡大に努めてまいります。

最後になりますが、参加いただいた一般参加者の皆様やJ Cメンバーに感謝申し上げます。ありがとうございました。



詳しくはホームページで!

<http://www.akitajc.jp/>

詳しい情報や写真などはホームページに掲載しております。